

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ふるさとB棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900306		
法人名	株式会社 スガワラ製作所		
事業所名	グループホーム ふるさとB棟		
所在地	〒029-3102 岩手県一関市花泉町金沢字運南田170-1		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和3年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の元安心して生活して頂けるよう心掛け支援しています。また、その時期・季節を味わって頂けるようホーム内でのレクリエーションの機会や外出の機会を設けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温暖な旧花泉町にあって、東北本線清水原駅から徒歩で数分の距離にある開設3年余になる2ユニットの事業所である。「一日一笑」を職員共通のテーマとして、利用者を笑顔にすることを職員全員のミッションとして日々の支援に努め、利用者の支援に成果を挙げている。開設から数年にも拘わらず、運営推進会議委員の協力を得て、理念に掲げる「地域との結びつきを大切」にして、順調に地域との交流が進んできた。近傍の保育所との交流の具体化も併せて目指してきたが、コロナ禍等の事情により、今年は様々な交流が中断状態にある。管理者と職員との係わりを密なものとし必要以外の「縛り」をなくした結果、事業所としての一体感が増し何でも話せる職場環境が醸成されており、今後一層の伸びやかな発展が期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月23日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ふるさとB棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のユニット会議で職員間で理念の共有をしている。また、ホールの見えやすい所に掲示し理念に沿ったサービスを心掛けています。	毎朝のミーティングで「地域」「家庭」「笑顔」をキーワードとする理念を確認し合い、職員意識を共有している。理念を基礎として、日々利用者を笑顔にする介護の実践を目指す「一日一笑」の取り組みは、事業所全体に浸透し、これまで居室に籠りがちの利用者の心を開かせる成果を挙げている。	理念を基礎とする介護を実践し、笑顔で穏やかに暮らせる環境を利用者に提供されており、今後は、事業所が掲げる目標の下に、職員一人一人が個別に具体的目標を設定して取り組む仕組みを作り上げることが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルス感染症の影響で外出や地域の方々をお呼びしての行事等はなかったが地域の方々が野菜やお花を持ってきていただき非間接的に交流を楽しんだ。	運営推進会議委員が会長を務める大門地区自治会に加入し、事業所の広報紙「ふるさと」を全世帯に配布している。会長の勧めもあり地域の方々の参加を得て芋煮会を開催してきたが、おからのコロナ禍と周辺環境の変化により、地域との交流が中断している状況にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は新型コロナウイルス感染症の影響で4月から毎月やっていた広報での介護一口メモは中止にしていた。しかし、お陰様で地域にも浸透してきたのか地域住民の方々から介護の相談を何件か受けた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルス感染者の影響で書面開催にしていた。しかし、委員の皆様一人一人のお会いし意見を聞くことでサービスの向上に努めた。	利用者家族、市支所担当職員、区長、民生委員、ご近所の方などを委員としている。コロナ禍のため、書面開催としているが、個々の委員に直接面会して意見等を伺い、形式的な会議となることを避けている。一般の職員の出席は、特に必要な場合のみとしているが、今後は委員意見等に直接接することが出来るよう、可能な範囲で書記役として出席させたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営についてわからない事は、行政機関に助言を受ける等日頃から連絡を密に取り合っている。	介護保険制度の適用関係については広域行政組合の指導を得ている。困難事例への対応についての相談に限らず、地域包括支援センターとは、入居希望者の紹介等についても、相互に協力し合いながら進めている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ふるさとB棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回身体拘束についてユニット会議の際に勉強会を行っている。	入居時に本人、家族に身体拘束廃止に関する事業所の指針等を説明し、事業所内で転倒事故が発生する場合もあることも含めて、了解を得ている。スピーチロックを疑われる言葉遣いがあった際には、その都度又はユニット毎の勉強会の席で注意喚起している。管理者は、「禁句集」を必要とする段階は既に過ぎているとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に3か月に一回ユニット会議で勉強会を行い身体拘束・虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する入居者様やご利用とされる方はいないが内部研修で勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書や契約書の内容を説明しています。入居者やご家族の不安や疑問点を伺い、不明な点、不安な点が残らないよう十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。また、6か月に1回ご家族様とカンファレンスを行っておりその際にご意見を頂戴している。	家族も出席するケアプラン更新時のカンファレンスの際に、併せて介護の在り方等についての意見、要望を伺っている。介護用品の使用やADLなど、家族の納得を得ながら支援に反映させている。比較的介護度の低いA棟の利用者からは、頻繁に買い物等の依頼がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議・朝のミーティング時に意見交換に於いて各職員から問題点や課題等を聞き取りし運営に反映させています。	職員に対しては、体調も思い遣りながら、話しやすい雰囲気作りを心掛け、その結果、ユニット会議や申し送り、個人面談など様々な場面で様々な意見・提案が出されるようになったとしている。介護しやすい浴槽の導入、心に優しい暖色系の壁面への変更などの浴室の大改修は、職員の提案によるものである。	

事業所名 : グループホーム ふるさとB棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の職位・職責又は職務内容等に応じた任用等の要件を定めこの内容等に応じた賃金体系を定めています。又、勤続年数や経験年数などに応じて昇給する仕組みを取っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修などの研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は認知症ケア専門士会に参加させていただきオンラインで勉強会を行った。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人の家に外向き実態調査を行っている。また、担当のケアマネージャーさんに生活歴や留意点を事前に情報提供していただき事で安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時に、ご本人さん・ご家族さんに施設見学をして頂いています。又、困っていること・不安に思っていることを気軽に話せる環境を作り、出来るだけ不安等を和らげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にご家族様と話し合いを行うことで、「今、何が必要なのか」を見極めその時にあった支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は何でもしてあげるのではなくその方が有する能力を最大限に発揮できるよう一歩下がってできるところはして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスを半年に一回行っている。また、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で面会に制限がかかるなど苦労したが何とか通信の自由が保たれるようオンライン面会も取り入れた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天気の良い日は外にドライブに出かけ一関市内の馴染みのある場所に行き会話を楽しんだ。また、オンライン面会を取り入れたことで普段なかなか来れない遠方のご家族様とも通信がとれた	コロナ禍のため友人・知人の来訪は無くなっているが、今年の秋口以降、3名の利用者が仙台や関東圏に居住する家族とオンラインで面会することが出来た。利用者は、宛名書きの練習などを経て家族あての年賀状を投函する準備が、今年丁度終わったところである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく施設内では一人で居室にいる時間はないように心がけている。ホールで皆さんとテレビ鑑賞をしたりレクリエーションをしたりして過ごして頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後もその後の生活がどうなっているのかを確認するとともに必要に応じて支援・助言を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望やご家族様の要望をお聞きし支援に努めている。	日々の介護を通じて把握した利用者の意向は「食べたい」「家に帰りたい」が主である。運営方針に掲げる「能力を最大限生かしたQOLの向上」のため、今できる日常生活動作を維持できるよう、時間がかかったとしても、利用者自身で最後まで取り組める支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様または入居前に担当して頂いていたケアマネージャーに情報をお聞きし支援に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングや介護記録を取る事で本人の状態の把握に努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ふるさとB棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作る前に職員同士でカンファレンスを行いモニタリング、アセスメントをする事で現状にあったケアプランを作成している。	利用者の状況を共有出来るよう、毎朝のミーティング時に利用者個々の課題を話し合っている。ケアマネは、それらをベースにモニタリング総括表、アセスメントチェック表を作成し、計画作成担当者、担当職員と家族を交えたカンファレンスの場で、見直し後の計画を確定している。家族・利用者の理解を得やすいよう、サービス計画表の援助内容をより具体的に記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ごとに介護記録を作成しケアの実践を記録している。また、朝のミーティングやユニット会議で気づきや実践結果を報告しあいケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスで言えば面会はオンライン面会へと切り替わった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年から地域包括に力を入れている病院様と協力医契約を結ばせていただき月に一度訪問診療を提供して頂いている。入居者様からも安心だという声を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	上記の内容と同じになるが新しく協力医契約を結ばせていただき、月に1度訪問診療に来て頂いている。また、元々の主治医を大切に頂いている入居者様はご家族様と一緒に通院して頂いている。	かかりつけ医受診は、訪問診療7名、訪問診療医療機関への通院3名、入居前からのかかりつけ医へ通院8名となっている。管理者等が作成した利用者の情報を託し、家族が通院に同行している。非常勤の看護師は、日常の健康管理と摘便等を担当している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎朝バイタルチェックをする事で異常時の早期発見に努めている。また、気になる点や異常時は看護師に報告し助言をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は施設での情報を提供させて頂き適切に医療が受けられるようにしている。また、退院時は病院側のカンファレンスに参加または書面にて留意点を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における指針の説明を行っている。また、施設利用時の状況に応じご家族様と話あう機会を設けている。	看取り指針では状況に応じて看取りが出来る旨を入居時に本人、家族に説明している。これまで看取りの実績はないものの、かつて看取りの体制を敷いたがそれに至らなかった事例はある。今後、必要に迫られることも頭に置きながら、体制等の整備づくりを進めていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設看護師に急変時の対応や応急処置の勉強会を開催して頂き勉強している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は地域の方々が参加しての災害訓練はなかったが毎年1回は消防訓練のほうに参加して頂いている。	ハザードマップ上の問題点はない。消防法に定める年2回の避難訓練を実施しており、今年は年明け以降に2回目を予定している。以前実施した夜間想定訓練では、車椅子を使った避難が可能なことを確認できたものの、利用者の避難誘導の大変さを痛感した。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人一人の個性や尊厳を十分に理解し言葉遣いや対応を気を付けている。	利用者一人一人を「今の時代を作ってくれた先輩」として、常に尊敬の念を持って支援に努めている。前職は様々であるものの、利用者は、掃除、配膳、洗濯物たたみなど、今出来ることを何でも行っている。利用者の個人記録は、1月からデータ管理に移行することとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がしたいことを把握し自己判断、自己決定ができるよう心掛けている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふるさとB棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合にならないよう利用者様の生活ペースに合わせれるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際にはお着替えする服を一緒に選んだりとその人らしさを意識したケアに取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを一緒に考えたり、季節に合わせた食事ができるよう心掛けている。また、食事の準備・片付けも手伝って頂いている。	食材は、3日分ずつを近くのスーパーで購入し、利用者も交替で一緒に出掛けている。今年も少し離れたところにある菜園で育てた野菜を利用者と収穫し、食卓に供している。誕生日のちらし寿司、敬老会のお弁当、クリスマスのシチューは利用者に好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師と連携し食事摂取量などを調整しながら提供している。また、朝・昼・夕の食事の他に10時と15時に水分補給を行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が食事の後に声掛けを行い、口腔清掃をして頂いている。また、就寝時には義歯の方はポリデントを使用するなどして清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを見極めなるべく尿失禁を減らせるよう心掛けている。	A棟では9名中車椅子の1名を除き全員が自立し（布パンツ3名）、B棟では9名全員がリハビリパンツを使用し、うち7名は見守り介助としている。ポータブルトイレ使用者はいない。普通に歩行出来るように支援することが、排泄の自立に繋がるとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師、医師と連携し何日も排便が出ていないかたには下剤を処方していただくこともある。また、軽体操をするなどして腸への働きかけ・予防に取り組んでいる。		



令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ふるさとB棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	音楽をかけたり、入浴剤を使用するなど入浴を楽しんでもらえるよう心掛けている。また、本人希望で入浴されることもある。	週2回を基本としながらも、希望する5名は週3回入浴出来るよう、毎日午前又は午後の2時間程度を入浴の時間に充てている。一人20分程度、利用者にとって寛げる時間となっている。浴室改修により、三方介助が容易になったほか、認知症に配慮して壁を暖色系のタイルに変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンをつかみ、日常生活に支障が出ないようにゆっくりと休んでいただいています。眠れない方には、水分補給をしたり、話を聞いたり安心して休んでいただけるように支援しています。睡眠剤が必要な方は内服されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更・追加になった場合は職員間で申し送りを行ない共有している。また、副作用が強い場合などは看護師・医師と相談し調整して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルス感染者の影響で外へ出て買い物は行わなかったが、ヤクルト屋さんの訪問や職員に嗜好品を伝え買ってもらうなど少しでも気分転換になる様心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染者の影響で昨今はいっていない。	道路事情のため事業所周辺の散歩は限られるものの、コロナ禍にあっても、ウッドデッキで外気浴がてら足湯を楽しんだり、ユニット毎に近隣の観光地までドライブに出掛けている。家族の協力による外出は通院のみとなっていることもあり、室内でゲームに興じる機会を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルト屋さんの訪問などの際に利用者さんに支払って頂くなど工夫してお金を使う楽しみの機会を作っている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ふるさとB棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙までの交流また、昨今はオンライン面会を取り入れた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季が感じられるようその季節にあった装飾をするなどして楽しんで頂いている。	リビングは白を基調とし天窓からも採光がある。大き目のソファを配置し、壁には利用者の手作りのカレンダー、四季の貼り絵、自筆の自分への感謝状などを掲出している。外出制限により室内での時間が多くなり、職員は工夫を凝らしてパズルゲームや職員のギター演奏のレク活動で利用者のストレスを緩和させている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き他入居者さんとゆっくりお話ができる空間を提供している。また、居室以外にもアウトデッキや足湯・畳スペースを利用し一人の時間を過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の要望やご家族様の意見も取り入れ居室の空間作りをしている。	ベッド、エアコン、洗面台、広めの押入れ兼クローゼットが備え付けになっている。各部屋は自分の思い出の品を置き、職員が利用者本位の部屋作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋やトイレなどに表札をつけわかりやすい工夫をしている。		